

開館40周年・子規没後120年祭
令和3年度春季特別展

つたえ、つなぐ 松山の子規顕彰ヒストリー



令和3年 6月2日(水)~7月19日(月)

休館日: 6月8日・15日・22日・29日、7月6日(いずれも火曜日)
開館時間: 午前9時 ~ 午後6時(展示室入場は午後5時30分まで)

会場: 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料: 個人 200円 団体 160円 65歳以上 100円 高校生以下 無料

特典/常設展とセットで特別展の観覧券を購入する場合、特別展の観覧料は2割引
子規博友の会会員が特別展の観覧券を購入する場合、特別展の観覧料は2割引



学芸員によるギャラリートーク・関連講座

《ギャラリートーク》

日時: 6月6日(日)、6月20日(日)、7月4日(日)ともに午前10時30分から50分程度

会場: 3階特別展示室 ※聴講には特別展の観覧券が必要

《関連講座》

演題: 「柳原極堂が目指した、子規顕彰のカタチ」

日時: 7月11日(日) 午前10時30分~12時

会場: 1階視聴覚室 ※入場無料

※ギャラリートーク・関連講座は、新型コロナウイルス感染症の状況により、中止もしくは入場制限等の変更を行う場合があります。

松山市立子規記念博物館

TEL 089-931-5566

〒790-0857 松山市道後公園 1-30

<http://sikihaku.iesp.co.jp/>

開館40周年・子規没後120年祭
令和3年度春季特別展

つたえ、つなぐ 松山の子規顕彰ヒストリー

子規記念博物館は、子規没後一二〇年目の記念の年である令和三年に、開館四十周年を迎えました。この四十年間で収集した資料は約七万点を数え、資料を調査・研究し、成果を発信することで、当館は子規研究・顕彰の拠点としての役割を果たしてきました。今回、開館四十周年・子規没後一二〇年祭を記念し、松山における子規顕彰のあゆみにスポットをあてた特別展を開催します。

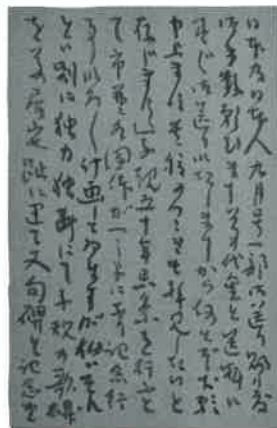
明治三十五（一九〇二）年九月十九日、子規は三十四歳十一月の生涯を閉じます。その死は、郷里松山で驚きと悲しみをもって受け止められ、子規の遺髪が東京から持ち帰られて埋葬式が市内の正宗寺で催されます。これ以降も、毎年の子規の命日に子規を偲んだ催しが執り行われますが、大正・昭和と時代がうつる中で、松山での子規の存在は徐々に風化する傾向にありました。

この状況を憂い、ここ松山での子規顕彰活動に力を尽くしたのが、子規の親友で子規派の俳人でもあった柳原極堂やなぎはら げくどうでした。昭和七（一九三二）年から俳誌「雞頭けいとう」に「子規と其の郷里松山」を連載するなど子規顕彰に注力していた極堂は、昭和十七（一九四二）年に東京から松山に戻り、本格的な活動に乗り出します。翌十八年には子規顕彰の組織「松山子規会」を立ち上げ、子規の五十回忌にあたる昭和二十六（一九五一）年には「子規五十年祭」の開催に奔走し、市民をあげて子規を顕彰する気運を醸成するべく、力を尽くしました。こうした極堂の活動は着実に実を結び、その営みは当館にも受け継がれ、ここ松山では現在も故郷を代表する偉人として「正岡子規」が愛され続けています。

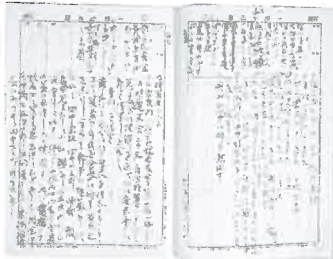
今回の特別展では、子規顕彰活動の礎を築いた柳原極堂がその活動を綴った日記やノート、また、松山子規会設立当時の活動を記録した資料や「子規五十年祭」の様子を物語る資料などを展示し、ここ松山において時代を超えて紡がれてきた子規顕彰活動の実像に迫ります。



松山子規会一周年記念写真（昭和19年）



柳原極堂の久保田正文あて書簡
（昭和26年9月6日）



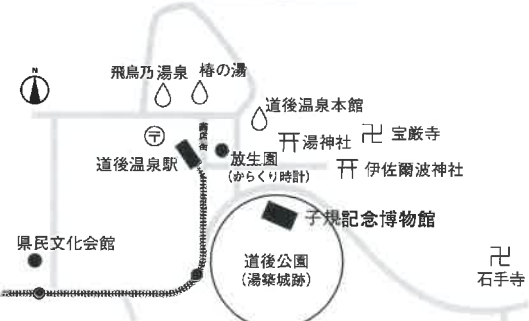
柳原極堂筆「日記」
（昭和18年1月19日）



柳原極堂句「感無量また生きて居て子規祭る」



村上露月句
「柿喰へば柿うまければ猶悲し」



道後温泉駅より徒歩約5分/道後公園駅より徒歩約5分 ※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

Tel. 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30 <http://sikhaku.lesp.co.jp/>